

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和4年7月29日※1
(前回公表年月日:令和3年7月30日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
学校法人今泉学園 今泉女子専門学校	昭和51年3月22日	校長 今泉玲子	〒963-8001 福島県郡山市大町1-2-3 (電話) 024-932-0429																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人今泉学園	昭和42年1月10日	理事長 今泉正規	〒963-8001 福島県郡山市大町1-2-3 (電話) 024-932-0429																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
服飾・家政	専門課程	プロフェッショナル科 (ファッションクリエイティブコース)	-	平成22年文部科学大臣 告示第34号																			
学科の目的	本学科では企業のその他関係機関との連携のもと、実務に関する高度な知識・技術・技能を教授し、多様な視点から社会のニーズを捉え、服飾業界を担える人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																	
4年	夜間	4040時間	1330時間	266時間	3572時間	0時間																	
	単位時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
60人の内数	10人	0人	7人の内数	4人の内数	11人の内数																		
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 筆記試験 教授細目評価 他総合評価																		
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:7月21日～8月25日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件	(卒業)所定の課程を修了した者 (進級)単位を履修した者																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との面談・家庭訪問			課外活動	■課外活動の種類 地域清掃活動・多種の募金活動 ■サークル活動: 有																		
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) アパレル産業・デパート・ブライダル関係・リフォーム店等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 就職ガイダンス 個別相談会 面接指導等				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技能検定 (婦人子供服製造技能士2級)</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>日本ファッション振興協会主催 パターンメイキング技術検定2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>洋裁技術検定上級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	技能検定 (婦人子供服製造技能士2級)	③	2人	2人	日本ファッション振興協会主催 パターンメイキング技術検定2級	③	2人	2人	洋裁技術検定上級	③	2人	2人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																		
	技能検定 (婦人子供服製造技能士2級)	③	2人		2人																		
	日本ファッション振興協会主催 パターンメイキング技術検定2級	③	2人		2人																		
	洋裁技術検定上級	③	2人		2人																		
■卒業生数	2	人																					
■就職希望者数	2	人																					
■就職者数	2	人																					
■就職率	100	%																					
■卒業者に占める就職者の割合	100	%																					
■その他				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)				■自由記述欄																			
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 12.5 % 令和3年4月1日時点において、在学者8名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者7名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 家庭の事情により就学困難のため																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 <本校特待生制度> 人物学力共に優れており将来の資質のある人材を育成するために設けられた制度(入学金全額免除) <高等教育の修学支援制度> 授業料等の減免と給付型奨学金により、意欲のある学生の修学を支援する制度(補助対象規定による)																						
	■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	www.imajo.net																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

「教育課程編成委員会」を設置して、企業等との連携を図り、職業教育上必要となる最新の専門知識・技術・技能を分析・把握することにより専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行う。学校で学んだことが社会に出て大いに役立ち専門分野で活躍出来る様教育課程編成委員会の意見を積極的に取り入れて、実践的かつ専門的な職業教育が行う為に重要な機関として位置付け、必要があれば随時カリキュラムの見直し等を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

職員会・校務分掌の教務部・教科の中に位置付ける。

平成25年10月1日より規定を施行し、教育課程編成委員会を学校運営に関する事項の議決機関として組織した。

学校で学んだことが社会に出て大いに役立ち専門分野で活躍出来るよう教育課程編成委員会での意見・提言は全教職員が十分理解した上で検討し更に教務部で検討しカリキュラムの策定・実施を行い反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月29日現在

名前	所属	任期	種別
勅使河原正憲	郡山商工会議所中小企業相談所産業振興課	2021年10月1日 ～2026年3月31日(4年)	①
佐藤文紀	福島産業(株) 代表取締役	2020年4月1日 ～2024年3月31日(4年)	③
鈴木宏秋	鈴木忠(株) 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	③
今泉玲子	今泉女子専門学校 校長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	
渡部セツ子	" 教務主任	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	
柳沼真理子	" 進路指導	2020年4月1日 ～2024年3月31日(4年)	
橋本品	" 専門課程ファッションクリエイトコース主任	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	
安斎美雪	" 専門課程きものコース主任	2022年4月1日 ～2026年3月31日(4年)	
緑川友理英	" 専門課程ファッションクリエイトコース教員	2021年7月1日 ～2025年6月30日(4年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年に2回以上開催する。

うち1回は、教育成果発表の場でもある学園祭開催時に行うものとする。

(開催日時)

第1回 令和4年10月15日(土)13:00～15:00(予)

第2回 令和4年12月22日(木)13:00～15:00(予)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・外部依頼は日常行っている課題細目とは違うものが多いが、今回チーム対抗でアロハシャツの開発を手がけたことは非常に有意であったとの意見があった。依頼の細部を汲み取り、デザインに落とし込む等の経験は学生にも良い影響を与えたため、今後も行事予定を妨げない程度で外部との連携を行い、商品開発などを行っていく。

・応用の部分を強化すべきとの意見があった。被服創造、被服応用などは基礎的な知識から工夫していく分野であるため、デザインや素材の指定こそするものの、限られた中で創意工夫を凝らせるよう、基礎の応用に役立つファッション学や被服学などの分野を強化していく。

・今泉女子専門学校から、今泉服飾専門学校への校名変更を検討すべきとの意見があった。内規や学則にも関わる部分であるため、慎重に協議を重ねていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める知識・技能や最新の実務を的確に反映した教育を行うため、企業等が学習活動にかかわり、学生と企業等が、相互理解を深められる学習機会(企業内実習・企業参加の学内実習活動等)を設定する。現場で体験し、実務実習を行うことにより業界の厳しさややりがいを学び、社会人としての心構えや目標を定められるよう指導を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習に従い、日時・内容・個別紹介等、企業担当者と担当教員が実習内容について詳細を決定し、学生への指導を行う。実習期間中は担当教員が巡回を行い、実習状況について確認し、学生が現場に即した適切な実習を行えるよう企業と連携して指導する。成績評価については、レポート、実習記録、自己評価を連携企業と評価し、成績評価の一部としている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
被服構成実習Ⅰ・Ⅳ	将来に向けて実践的かつ専門的な就業体験	福島産業(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関係分野における企業等との連携において先端的な知識・技能等習得するため、研修や指導力育成等の資質向上の取り組みを行い、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム作成や多面的な教育方法の指導ができる教員を育成する目的で「研修等に係る諸規定」に基づき、年に4回程度、年度初めに計画を立て校内研修・校外研修を実行している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

○研修名：アロハシャツ研究研修

連携企業：合同会社WATASHI JAPAN

期間：令和3年5月28日(金)

対象：当該科目教員

内容：伝統文化「きもの」の価値を再認識してアロハシャツの開発をする着物リメイクをムスリム女性のためにアイテムを制作、販売している会社の研修。SDGsへの理解を含めきものへの新たな関心の機会となった研修であった。

②指導力の修得・向上のための研修等

○研修名：就職指導のための研修

連携企業：福島キャリア形成サポートセンター

期間：令和3年8月23日(月)

対象：当該科目教員

内容：ジョブカードの活用方法を学び就職に結び付けていくことの指導の研修。ジョブカード活用によって自己分析をし、「三つの側面」を知り、自己PRがしやすく面接に繋げる。

○研修名：ライフデザインセミナー

連携企業：株式会社ペンギンエデュケーション

期間：令和3年10月21日(木)

対象：当該科目教員

内容：福島県男女共生センターによる研修。男女のワークライフバランスについて、現在は大きく変わりつつあるため、今後のキャリア形成に役立てる。

○研修名：人材教育のための研修

連携企業：株式会社宝来屋

期間：令和3年12月10日(金)

対象：当該科目教員

内容：明治時代創業の甘酒、味噌の麹製品を大半としている老舗会社の研修。会社は人あっての発展であるため、声掛けの重要性を示した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

○研修名：伊勢型紙による型染の研修
 連携企業：形幸染物店
 期間：令和4年8月20日（土）
 対象：当該科目教員
 内容：伊勢型紙を用いて、江戸小紋の染色技法を学ぶ

○研修名：革工芸
 連携企業：株式会社タカマツ
 期間：令和4年8月2日（火）
 対象：当該科目教員
 内容：皮革の縫製・扱い方を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等
 ○研修名：カウンセリング
 連携企業：リクルート
 期間：令和4年7月19日（火）
 対象：当該科目教員
 内容：昨今の生徒の思考や傾向を理解し、進路指導の一助とする

○研修名：パーソナルカラー診断
 連携企業：一般社団法人新パーソナルカラー協会
 期間：令和4年7月5日（火）
 対象：当該科目教員
 内容：パーソナルカラーの基礎と診断方法を理解し指導の一助とする

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として企業等から委員を参画した学校関係者評価委員会を設置して評価を実施し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等に生かす取組を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか ・ 職業とキャリアを重視した教育がなされているか ・ 専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか ・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・ 専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか ・ 事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか ・ 運営組織や意思決定機能は毎朝の職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか ・ 人事、給与に関する規定等は整備されているか ・ 業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか ・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・ 業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか ・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成され、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか ・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携事業)は体系的に位置づけられているか ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・ 授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・ 人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率の向上が図られているか ・ 資格取得率の向上が図られているか ・ 退学率の低減が図られているか ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路・就職に関する指導・支援は行われているか ・ 学生相談に関する体制は整備されているか ・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ・ 保護者会と適切に連携しているか ・ 卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・ 中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・ 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・業界や連携企業などからニーズを汲み取り、より実践的な教育が行われるよう、環境づくりに努めるよう意見があった。いずれのアパレル・縫製工場でもCADシステムが運用されているため、アカデミック版などから着手して学習に反映できるよう試みる。

・学生募集に関して、今までのやり方に固執せず、競合校や学生の状況などの情報収集に努め、適時見直しと分析を行うべきとの意見があった。今まで集めた情報を活用し、種々の学生募集の手法を試み、入学者増加に努める。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月29日現在

名前	所属	任期	種別
半澤悟	福田屋 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	業界関係者
名和淳子	合同会社WATASI JAPAN 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	業界関係者
佐藤文紀	福島産業(株) 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	業界関係者
遠藤重子	福島県生活学校連絡協議会 会長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	学校等評価委員

早尾理津子	今泉女子専門学校 同窓会会長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	卒業生
田部敬子	今泉女子専門学校 同窓会副会長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	卒業生
鎌田真知子	今泉女子専門学校 保護者会会長	2021年5月1日 ～2025年4月30日(4年)	保護者
伊東周子	郡山市大町町内会 代表	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	地域住民
増子真也	(株)増子会計センター代表 取締役社長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	マネジメント 財務
伊藤清郷	郡山商工会議所 副会頭	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	学校等評価 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公表時期:令和4年7月29日
 URL: www.imajo.net

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

実践的な職業教育等を目的とした教育活動やその他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表をすることにより、学校関係者等から理解と参画を得て、学校としての組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の経営方針 ・努力事項 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	・入試情報 ・履修科目 ・目指す職業 ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・技能五輪・各種コンクールの実績 ・卒業後の進路(就職率・主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況 ・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況 ・課外活動(クラブ活動、学友会ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	・事業報告書等
(9)学校評価	・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	・留学生招致に向けての取組
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

・ホームページ: <http://www.imajo.net>
 ・学校案内(パンフレット)及び募集要項

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程プロフェッショナル科ファッションクリエイティブコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			被服構成実習Ⅰ	服飾造形基礎 婦人服ⅠⅡⅢⅣ ドレーピング 技能検定対策 就業体験	1 2 通	1368			△	○	○	△	○	△	○
	○		被服構成実習Ⅱ	子供服 メンズウェア 各種部分縫いⅠ	1 2 通	114			△	○	○			○	△
		○	被服構成実習Ⅲ	自由研究Ⅰ	1 2 通	76			△	○	○			○	
○			被服構成実習Ⅳ	服飾造形応用ⅠⅡ 立体裁断Ⅰ 工業用パターンメイキング パターンメイキング検定対策 ユニバーサルデザイン研究 ファッションスタイル画 就業体験	3 4 通	950			△	○	○	△	○	△	○
	○		被服構成実習Ⅴ	各種部分縫いⅡ 県・市・地場産業からの 依頼作品	3 4 通	152			△	○	○	△	○	△	
	○		被服構成実習Ⅵ	立体裁断Ⅱ リフォーム・リメイク	3 4 通	76			△	○	○			○	△
		○	被服構成実習Ⅶ	自由研究Ⅱ	3 4 通	76			△	○	○			○	
○			被服構成理論Ⅰ	服飾造形基礎 婦人服ⅠⅡⅢⅣ ドレーピング	1 2 通	228		○			○			○	△
	○		被服構成理論Ⅱ	子供服 メンズウェア 各種部分縫いⅠ	1 2 通	152		○			○			○	△
○			被服構成理論Ⅲ	服飾造形応用ⅠⅡ 立体裁断Ⅰ 工業用パターンメイキング パターンメイキング検定対策 特殊衣装 ユニバーサルデザイン研究	3 4 通	228		○			○			○	△
	○		被服構成理論Ⅳ	立体裁断Ⅱ 生活スタイルによる服飾デザイン 各種部分縫いⅡ	3 4 通	152		○			○	△		○	△
○			服飾手芸Ⅰ	刺繍 染色 パッチワーク 編物 刺子 等	1 2 通	76		△		○	○			△	○
○			服飾手芸Ⅱ	刺繍 染色 パッチワーク 編物 刺子 等	3 4 通	76		△		○	○			△	○
○			被服学Ⅰ	服装史 服飾材料 衣服管理	1 2 通	76		○			○	△		○	△

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間	単位数	授業方法				場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			被服学Ⅱ	服装史 服飾材料 衣服管理	3 4 通	76		○			○	△	○	△		
○			ファッション学Ⅰ	人体のプロポーション ドローイング 色彩	1 2 前	76		△		○	○			○		
○			ファッション学Ⅱ	人体のプロポーション ドローイング 色彩	3 4 前	76		△		○	○			○		
○			着物着付Ⅰ	着装理論 着装実習 コーディネート	1 2 通	76		△	○		○		△	○		
○			着物着付Ⅱ	着装理論 着装実習 コーディネート	3 4 通	76		△	○		○		△	○		
○			教養学Ⅰ	服飾全般について学び人間としての教養を高める	2 通	38		○			○		○	△		
○			教養学Ⅱ	服飾全般について学び人間としての教養を高める	3 4 通	76		○			○		○	△		
○			教育学Ⅰ	生涯教育を含めた自立教育	1 2 通	76		○			○		○	△		
○			教育学Ⅱ	生涯教育を含めた自立教育	3 4 通	76		○			○		○	△		
○			栄養学	調理実習を通して栄養のバランスや調理法を学ぶ	1 2 通	76		△		○	○			○		
	○		茶道・華道Ⅰ	日本伝統文化に触れる	1 2 通	76		△	○		○			○		
	○		茶道・華道Ⅱ	日本伝統文化に触れる	3 通	38		△	○		○			○		
○			被服応用技術	外部オーダーによる衣服 特殊衣装	3 4 通	152		△		○	○			○		
○			被服創造技術	研究作品	3 4 通	152		△		○	○			○		
○			ファッションビジネスⅠ	ファッションビジネス検定・ファッション色彩検定・ファッション販売検定対策	1 2 通	76		○			○			○		
○			ファッションビジネスⅡ	ファッションビジネス検定・ファッション色彩検定・ファッション販売検定対策	3 4 通	76		○			○			○		
	○		情報処理	パソコンの基礎知識 ワード・エクセルの習得	3 4 通	76			△	○	○			○		
合計			19 科目			5168単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法

授業期間等

必修科目3400単位時間以上 必修選択科目640単位時間以上

1 学年の学期区分	3期
1 学期の授業期間	12.7週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地															
学校法人今泉学園 今泉女子専門学校		昭和51年3月22日	校長 今泉玲子	〒963-8001 福島県郡山市大町1-2-3 (電話) 024-932-0429															
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人今泉学園		昭和42年1月10日	理事長 今泉正規	〒963-8001 福島県郡山市大町1-2-3 (電話) 024-932-0429															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
服飾・家政	専門課程	プロフェッショナル科 (きものコース)		-	平成22年文部科学大臣 告示第34号														
学科の目的	本学科では企業のその他関係機関との連携のもと、実務に関する高度な知識・技術・技能を教授し、多様な視点から社会のニーズを捉え、服飾業界を担える人材を育成することを目的とする。																		
認定年月日	平成26年3月31日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
4年	昼間	4040時間	1330時間	266時間	3572時間	0時間	0時間												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
60人の内数		6人	0人	7人の内数	4人の内数	11人の内数													
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 筆記試験 教授細目評価、他総合評価														
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:7月21日～8月25日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級 条件	(卒業) 所定の課程を修了した者 (進級) 単位を履修した者														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との面談・家庭訪問			課外活動	■課外活動の種類 地域清掃活動・多種の募金活動 ■サークル活動: 有														
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) アパレル産業・デパート・ブライダル関係・リフォーム店等 ■就職指導内容 ・就職ガイダンス ・個別相談会 ・面接指導 ■卒業生数 : 0 人 ■就職希望者数 : 0 人 ■就職者数 : 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 % ■その他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着付 初修</td> <td>③</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>和裁技術検定上級</td> <td>③</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	着付 初修	③	-	-	和裁技術検定上級	③	-	-
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																
着付 初修	③	-	-																
和裁技術検定上級	③	-	-																
中途退学 の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 令和3年4月1日時点において、在学者5名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者5名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="radio"/> 有・無 <本校特待生制度> 人物学力共に優れており将来的資質のある人材を育成するために設けられた制度(入学金全額免除) <高等教育の修学支援制度> 授業料等の減免と給付型奨学金により、意欲のある学生の修学を支援する制度(補助対象規定による) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象																		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="radio"/> 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科の ホームページ URL	www.imajo.net																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

「教育課程編成委員会」を設置して、企業等との連携を図り、職業教育上必要となる最新の専門知識・技術・技能を分析・把握することにより専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を行う。学校で学んだことが社会に出て大いに役立ち専門分野で活躍出来る様教育課程編成委員会の意見を積極的に取り入れて、実践的かつ専門的な職業教育が行う為に重要な機関として位置付け、必要があれば随時カリキュラムの見直し等を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

職員会・校務分掌の教務部・教科の中に位置付ける。

平成25年10月1日より規定を施行し、教育課程編成委員会を学校運営に関する事項の議決機関として組織した。

学校で学んだことが社会に出て大いに役立ち専門分野で活躍できるよう教育課程編成委員会での意見・提言は全教職員が十分理解した上で検討し更に教務部で検討しカリキュラムの策定・実施を行い反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月29日現在

名前	所属	任期	種別
勅使河原正憲	郡山商工会議所中小企業相談所産業振興課	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	①
佐藤文紀	福島産業(株) 代表取締役	2020年4月1日 ～2024年3月31日(4年)	③
鈴木宏秋	鈴木忠(株) 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	③
今泉玲子	今泉女子専門学校 校長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	
渡部セツ子	” 教務主任	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	
柳沼真理子	” 進路指導	2020年4月1日 ～2024年3月31日(4年)	
橋本品	” 専門課程ファッションクリエイトコース主任	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	
安斎美雪	” 専門課程きものコース主任	2022年4月1日 ～2026年3月31日(4年)	
緑川友理英	” 専門課程ファッションクリエイトコース教員	2021年7月1日 ～2025年6月30日(4年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年に2回以上開催する。

うち1回は、教育成果発表の場でもある学園祭開催時に行うものとする。

(開催日時)

第1回 令和4年10月15日(土)13:00～15:00(予)

第2回 令和4年12月22日(木)13:00～15:00(予)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・外部依頼は日常行っている課題細目とは違うものが多いが、今回チーム対抗でアロハシャツの開発を手がけたことは非常に有意であったとの意見があった。依頼の細部を汲み取り、デザインに落とし込む等の経験は学生にも良い影響を与えたため、今後も行事予定を妨げない程度で外部との連携を行い、商品開発などを行っていく。

・応用の部分を強化するべきとの意見があった。被服創造、被服応用などは基礎的な知識から工夫していく分野であるため、デザインや素材の指定こそするものの、限られた中で創意工夫を凝らせるよう、基礎の応用に役立つファッション学や被服学などの分野を強化していく。

・今泉女子専門学校から、今泉服飾専門学校への校名変更を検討するべきとの意見があった。内規や学則にも関わる部分であるため、慎重に協議を重ねていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める知識・技能や最新の実務を的確に反映した教育を行うため、企業等が学習活動にかかわり、学生と企業等が、相互理解を深められる学習機会(企業内実習・企業参加の学内実習活動等)を設定する。現場で体験し、実務実習を行うことにより業界の厳しさややりがいを学び、社会人としての心構えや目標を定められるよう指導を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実務実習に従い、日時・内容・個別紹介等、企業担当者と担当教員が実習内容について詳細を決定し、学生への指導を行う。実習期間中は担当教員が巡回を行い、実習状況について確認し、学生が現場に即した適切な実習を行えるよう企業と連携して指導する。成績評価については、レポート、実習記録、自己評価を連携企業と評価し、成績評価の一部として

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
被服構成実習 I・IV	将来に向けて実践的かつ専門的な就業体験	有限会社本田京染店
被服構成実習 I・IV	将来に向けて実践的かつ専門的な就業体験	株式会社福寿苑

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関係分野における企業等との連携において先端的な知識・技能等習得するため、研修や指導力育成等の資質向上の取り組みを行い、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラム作成や多面的な教育方法の指導ができる教員を育成する目的で「研修等に係る諸規定」に基づき、年に4回程度、年度初めに計画を立て校内研修・校外研修を実行している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

○研修名：アロハシャツ研究研修

連携企業：合同会社WATASHI JAPAN

期間：令和3年 5月28日(金)

対象：当該科目教員

内容：伝統文化「きもの」の価値を再認識してアロハシャツの開発をする着物リメイクをムスリム女性のためにアイテムを制作、販売している会社の研修。SDGsへの理解を含めきものへの新たな関心の機会となった研修であった。

② 指導力の修得・向上のための研修等

○研修名：就職指導のための研修

連携企業：福島キャリア形成サポートセンター

期間：令和3年8月23日(月)

対象：当該科目教員

内容：ジョブカードの活用方法を学び就職に結び付けていくことの指導の研修。ジョブカード活用によって自己分析をし、「三つの側面」を知り、自己PRがしやすく面接に繋げる。

○研修名：ライフデザインセミナー

連携企業：株式会社ペンギンエデュケーション

期間：令和3年10月21日(木)

対象：当該科目教員

内容：福島県男女共生センターによる研修。男女のワークライフバランスについて、現在は大きく変わりつつあるため、今後のキャリア形成に役立てる。

○研修名：人材教育のための研修

連携企業：株式会社宝来屋

期間：令和3年12月10日(金)

対象：当該科目教員

内容：明治時代創業の甘酒、味噌の麹製品を大半としている老舗会社の研修。会社は人あつての発展であるため、声掛けの重要性を示した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

○研修名：伊勢型紙による型染の研修
連携企業：形幸染物店
期間：令和4年8月20日（土）
対象：当該科目教員
内容：伊勢型紙を用いて、江戸小紋の染色技法を学ぶ

○研修名：革工芸
連携企業：株式会社タカマツ
期間：令和4年8月2日（火）
対象：当該科目教員
内容：皮革の縫製・扱い方を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

○研修名：カウンセリング
連携企業：リクルート
期間：令和4年7月19日（火）
対象：当該科目教員
内容：昨今の生徒の思考や傾向を理解し、進路指導の一助とする

○研修名：パーソナルカラー診断
連携企業：一般社団法人新パーソナルカラー協会
期間：令和4年7月5日（火）
対象：当該科目教員
内容：パーソナルカラーの基礎と診断方法を理解し指導の一助とする

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として企業等から委員を参画した学校関係者評価委員会を設置して評価を実施し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等に生かす取組を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
-------------	-------------

(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創学の精神「自立」と「清く・正しく・美しく」の教育理念は実行されているか ・ 職業とキャリアを重視した教育がなされているか ・ 専修学校が社会に於ける役割を認識しニーズに応える学校づくりに努めているか ・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・ 専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動をして専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校務分掌役割の確認と責任の遂行はなされているか ・ 事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか ・ 運営組織や意思決定機能は毎朝の職員会議等で諮られて納得して十分機能しているか ・ 人事、給与に関する規定等は整備されているか ・ 業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか ・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・ 業界のニーズに十分応えるレベルに到達する教育と時間の配分が明確にされているか ・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成され、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか ・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携事業)は体系的に位置づけられているか ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・ 授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・ 人材育成目標達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率の向上が図られているか ・ 資格取得率の向上が図られているか ・ 退学率の低減が図られているか ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍や卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路・就職に関する指導・支援は行われているか ・ 学生相談に関する体制は整備されているか ・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか ・ 保護者会と適切に連携しているか ・ 卒業生へのニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・ 中学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が積極的に行われているか ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行い、自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学友会のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣に積極的に取り組んでいるか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・業界や連携企業などからニーズを汲み取り、より実践的な教育が行われるよう、環境づくりに努めるよう意見があった。いずれのアプリル・縫製工場でもCADシステムが運用されているため、アカデミック版などから着手して学習に反映できるよう試みる。

・学生募集に関して、今までのやり方に固執せず、競合校や学生の状況などの情報収集に努め、適時見直しと分析を行うべきとの意見があった。今まで集めた情報を活用し、種々の学生募集の手法を試み、入学者増加に努める。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月29日現在

名前	所属	任期	種別
半澤悟	福田屋 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	業界関係者
名和淳子	合同会社WATASI JAPAN 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	業界関係者
佐藤文紀	福島産業(株) 代表取締役	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	業界関係者
遠藤重子	福島県生活学校連絡協議会 会長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	学校等評価委員

早尾理津子	今泉女子専門学校 同窓会会長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	卒業生
田部敬子	今泉女子専門学校 同窓会副会長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	卒業生
鎌田真知子	今泉女子専門学校 保護者会会長	2021年5月1日 ～2025年4月30日(4年)	保護者
伊東周子	郡山市大町町内会 代表	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	地域住民
増子真也	(株)増子会計センター代表 取締役社長	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	マネジメント 財務
伊藤清郷	郡山商工会議所 副会頭	2021年10月1日 ～2025年9月30日(4年)	学校等評価 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()) 公表時期:令和4年7月29日

URL: www.imajo.net

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

実践的な職業教育等を目的とした教育活動やその他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表をすることにより、学校関係者等から理解と参画を得て、学校としての組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の経営方針 ・努力事項 ・校長名、所在地、連絡先 ・学校の沿革、歴史
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入試情報 ・履修科目 ・目指す職業 ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・技能五輪・各種コンクールの実績 ・卒業後の進路(就職率・主な就職先)
(3)教職員	・教職員数(職名別)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取組状況 ・就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況 ・課外活動(クラブ活動、学友会ボランティア活動等)
(6)学生の生活支援	・学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) ・活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8)学校の財務	・事業報告書等
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	・留学生招致に向けての取組
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

- ・ホームページ: <http://www.imajo.net>
- ・学校案内(パンフレット)及び募集要項

授業科目等の概要

(服飾・家政専門課程プロフェッショナル科きものコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			被服構成実習Ⅰ	和服造形基礎 子供着物ⅠⅡ 単衣長着Ⅰ 袷長着ⅠⅡ 帯 就業体験	1 2 通	1368			△	○	○	△	○	△	○
	○		被服構成実習Ⅱ	一つ身重ね 綿入れ各種 コート各種	1 2 通	114			△	○	○		○	△	
		○	被服構成実習Ⅲ	自由研究Ⅰ	1 2 通	76			△	○	○		○		
○			被服構成実習Ⅳ	袷長着 留袖 喪服 特殊衣装Ⅰ 技能検 定対策 ユニバーサルデザイン研究 就業 体験	3 4 通	950			△	○	○	△	○	△	○
	○		被服構成実習Ⅴ	特殊衣装Ⅱ 外部オーダーによる和服縫製 外部オーダー作品(企業・公共機関・個人)	3 4 通	152			△	○	○	△	○	△	
	○		被服構成実習Ⅵ	着物リメイク・リフォーム 袴	3 4 通	76			△	○	○		○	△	
		○	被服構成実習Ⅶ	自由研究Ⅱ	3 4 通	76			△	○	○		○		
○			被服構成理論Ⅰ	和服造形基礎 子供着物 単衣長着 袷長着 帯	1 2 通	228			○		○		○	△	
	○		被服構成理論Ⅱ	一つ身重ね 綿の種類と扱い方 コート	1 2 通	152			○		○		○	△	
○			被服構成理論Ⅲ	和服造形ⅠⅡ 袷長着 留袖 喪服 特殊 衣装Ⅰ 技能検定対策 ユニバーサルデザイン研究	3 4 通	228			○		○		○	△	
		○	被服構成理論Ⅳ	特殊衣装Ⅱ(法被・祭礼用・神宮・時代衣装・舞 台衣装等) 伝統を踏まえた今後のきものあり方について 外部オーダーによる和服縫製 外部オーダー作品(企業・公共機関・個人)	3 4 通	152			○		○	△	○	△	
○			服飾手芸Ⅰ	刺繍 染色 パッチワーク 編物 刺子等	1 2 通	76			△		○	○		△	○
○			服飾手芸Ⅱ	刺繍 染色 パッチワーク 編物 刺子等	3 4 通	76			△		○	○		△	○
○			被服学Ⅰ	服装史 服飾材料 衣服管理	1 2 通	76			○		○	△	○	△	
○			被服学Ⅱ	服装史 服飾材料 衣服管理	3 4 通	76			○		○	△	○	△	
○			ファッション学Ⅰ	人体のプロポーション ドローイング 色彩	1 2 前	76			△		○	○			○
○			ファッション学Ⅱ	人体のプロポーション ドローイング 色彩	3 4 前	76			△		○	○			○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			着物着付Ⅰ	着装理論 着装実習 コーディネート	1 2 通	76		△	○		○		△	○	
○			着物着付Ⅱ	着装理論 着装実習 コーディネート	3 4 通	76		△	○		○		△	○	
○			教養学Ⅰ	服飾全般について学び人間としての教養を高める	2 通	38		○			○		○	△	
○			教養学Ⅱ	服飾全般について学び人間としての教養を高める	3 4 通	76		○			○		○	△	
○			教育学Ⅰ	生涯教育を含めた自立教育	1 2 通	76		○			○		○	△	
○			教育学Ⅱ	生涯教育を含めた自立教育	3 4 通	76		○			○		○	△	
○			栄養学	調理実習を通して栄養のバランスや調理法を学ぶ	1 2 通	76		△		○	○			○	
	○		茶道・華道Ⅰ	日本伝統文化に触れる	1 2 通	76		△	○		○			○	
	○		茶道・華道Ⅱ	日本伝統文化に触れる	3 通	38		△	○		○			○	
○			被服応用技術	外部オーダーによる和服縫製・オーダー作品	3 4 通	152		△		○	○		○		
○			被服創造技術	研究作品	3 4 通	152		△		○	○		○		
○			ファッションビジネスⅠ	ファッションビジネス検定・ファッション色彩検定・ファッション販売検定の対策	1 2 通	76		○			○		○		
○			ファッションビジネスⅡ	ファッションビジネス検定・ファッション色彩検定・ファッション販売検定の対策	3 4 通	76		○			○		○		
	○		情報処理	パソコンの基礎知識 ワード・エクセルの習得	3 4 通	76			△	○	○		○		
合計					31 科目	5168単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必修科目3400単位時間以上 必修選択科目640単位時間以上		1学年の学期区分	3期
		1学期の授業期間	12.7週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。